

令和7年度 第2回豊橋市安全で安心なまちづくり審議会議事録

日 時	令和8年2月25日（水）14：00～15：00
場 所	豊橋市役所 東館12階 東121会議室
出席者	別紙のとおり
傍聴者	0名

司 会：只今より第2回豊橋市安全で安心なまちづくり審議会を開催いたします。
豊橋市安全で安心なまちづくり審議会規則第3条第2項の規定における半数以上の出席となったため、本日の審議会は成立することを申し添えます。
はじめに安全生活課長の太田よりごあいさつを申し上げます。

課 長：～あいさつ～

司 会：以後の進行は、余郷会長にお願いします。

会 長：よろしく申し上げます。水不足ではありましたが、昨晚から雨が降り、少し嬉しく思う一方、出掛けるのには気が重い今日ですけれども、お忙しい中お運びいただきまして、本当にありがとうございました。
本審議会は公開となっております。議事録を作成後、ホームページで公表をさせていただくにあたり、議事録の確認のための署名を河邊委員と山本委員にお願いしてもよろしいでしょうか。

委 員：異議なし。

会 長：それでは議題に入らせていただきます。第7次安全で安心なまちづくり行動計画の策定案につきまして、事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局：～第7次安全で安心なまちづくり行動計画策定案について説明～

会 長：ありがとうございました。只今の説明を受けまして、委員の皆様の置かれる立場からご質問やご意見などありますか。

委 員：前回の審議会で、刑法犯認知件数の目標値1,600件について、現実的に達成が難しいのではという指摘をさせていただき、今回、少し数値を上げた1,800件に設定していただきました。令和7年の認知件数が1,950件近いので、大変厳しい状況になっていると感じます。これから計画期間の2年間、皆さんとともに地域の安全を守りながら、計画に則した活動をやっていけたらと考えています。

会 長：こんなに令和4年から少しずつ上がってきて、令和7年は1,948件という数値ですが、下がる兆し等はないのでしょうか。

委 員：犯罪の種類によって上がり下がりが結構ありまして、昨年ですと自動車盗、特殊詐欺がすごく増えてしまった一方で、自転車盗はすごく減っています。
愛知県全体、日本全体の情勢として、自動車盗や特殊詐欺が増えている状況があり、減少の兆候が見えているのかと言われれば、委員の皆さんもテレビで見られるように、例えば特殊詐欺では海外拠点があり、捕まえてはいるものの、「雨後の筍」のような状態です。個人レベルになりますが、何とか市民の皆さんに、電話機に国際電話がかかってこない対策をとってもらうとか、スマートフォンにアプリを入れてもらうといったことを進めています。

また、自動車盗も、盗まれた自動車はどこへ行くのかと言うと、ほとんどがどこかのヤードに入り、コンテナに詰められた後、海外などに運ばれてしまう現状があり、犯罪もグローバル化しています。もちろん捕まえるものの、やはり皆さんに対策をとっていただき、件数を減少させていけるよう、計画でも触れられている情報発信や、安全なまちづくりというのは、本当に「絵に描いた餅」ではなく、まさにそこが一丁目一番地ですので、防犯に関連する皆さんがパトロールを本当に一生懸命やってくださっていると、その姿を見た地域の皆さんも対策を取ろうと意識するよ

うになりますし、犯人側もこの地域で犯罪をするのは危ないなというふうに思わせることができます。何とか、犯罪を減らすことで、発生してしまった犯罪の犯人捜査により集中でき、さらにまた犯罪が減るといい循環に持っていくことができれば、1,800件という目標は、達成できるのではないかと考えます。

犯罪が多い少ないっていうのは、地域の皆さんの住みやすさのバロメーターにもすぐ直結する話で、犯罪を減らして住みやすい人気のまちにどんどんなっていっていただきたいと思います。

会 長：豊橋市の住みやすさは、全国上位ぐらいには入っていますよね。住みやすさに、防犯は本当に欠かせない要素の一つです。市民の人たちが一生懸命、目を光らせるっていうことが大事なのではないでしょうか。他にご意見はございますか。

委 員：一点質問で、市の青パトは、民間業者にパトロールを委託していますか。

事務局：以前は委託で実施していた時期もございますが、現在、市の職員が実施しています。

会 長：夜間も実施していますか。

事務局：現状、日中だけになります。

会 長：警察のパトカーが見回るだけでもすごく安心します。市役所の青パトにもあれと似たような感じで市内を回っていただけると助かります。

委 員：防犯パトロールに関連した話で、自治会の防犯活動の参加者は高齢化が大変進んでいます。若い世代がもう少し増えるといいと考えています。

会 長：高齢の方が多くなか、たいへん苦勞されていると思います。若い方を交えるためには、どういった取組みが必要でしょうか。

委 員：まずは数回でいいからと、若い方の参加を促せたらとは思っています。

委 員：事務局に質問で、「子ども見まもり隊」や各校区の防犯団体が視覚効果の高い色のベスト等を着用して見守りを実施していますが、こうした活動の効果等を示す数値などはありますか。声掛け、あいさつ運動などは防犯効果があるという話を聞くので、そういうことを一般の人に浸透させるためのアピールが必要だと考えています。

事務局：定量的なものというのは特にはないですが、地域として防犯活動に熱心な地域というのは、犯罪を起きにくくさせる要因になるという話があります。

また、市民の方への情報発信についても、防犯活動についてどういった媒体で発信していくかというのは課題であると感じています。

委 員：難しいことではなく、日常生活の中で何ができるかということで、地域住民が防犯活動に参加しやすい雰囲気づくりを、ぜひお願いしたいと思います。

委 員：自分自身が自主防犯活動を20年以上実施してきて、地域防犯については校区自治会長が率先して指導していただくことがまず大事だと感じています。防犯に自治会長が力を入れていただけたら、防犯活動に関心のない方にも響くと思います。

委 員：自治会長のなり手不足の問題もあり、自ら自治会長になるという人は減っている現状があります。しかし、委員のおっしゃる通り、地域のために、まずは「やってみる」ということが大切であると思いますので、取り組みやすい雰囲気づくりがまずは必要なのではないのでしょうか。

委 員：地域の防犯力向上に関して、夜間、近隣で門灯を点けているお宅は3割程度しかないのですが、各家庭が門灯を点灯していただくだけで周辺が明るくなり、防犯効果が高まると思います。以前の審議会後にも事務局にお伝えしましたが、こうした今すぐできる取組みについて広報等で広く案内していただけたらと思います。

事務局：市でも「広報とよはし」令和7年12月号の記事で、夜間の門灯の点灯などの防犯対策をご案内させていただきました。先ほどのあいさつ運動など、いただいたご意見を参考にしながら、市民の皆さんに取り組んでいただきやすいような防犯対策について情報発信をしていけたらと考えています。

会 長：各地域の自治会でも防犯灯や防犯カメラの維持については、ご苦勞があると聞きます。そのような中で、市が管理する防犯カメラの設置が昨年度から始まったとのことですが、進捗はいかがですか。また、どういった箇所へ設置をされていますか。

事務局：主要な交差点や通学路などを中心に設置をしています。令和6年度から始め、令和7年度までの2年間で500台設置をしました。今後も必要な箇所を選定しながら設置を進めてまいります。

また、「防犯カメラ設置推進地区」と記載された黄色のプレートを、地域内に設置することも地域の目としての効果に繋がると考えます。ご希望される自治会にお配りし、自治会の皆様にご協力いただきながら設置を進めたいと考えています。

会長：学校周辺などで見かけますが、あのプレートは大変インパクトがあると感じています。

そのほか、ご意見や感想、ご質問はございますか。

委員：質問になるのですが、空き巣に入られたお宅が「うちは二度やられた」などと言うのを聞くのですが、空き巣入れやすい原因などはあるのでしょうか。

委員：近年、情報に基づいた空き巣が多いと感じます。「旅行に行く」「ブランド物のバッグを買った」など、SNS等で発信された情報が空き巣被害に遭う原因になることがあります。また、犯人が個人宅の見取り図などを持っていたケースなどもあります。現金を家に置く習慣がある方については、見直していただく必要があります。これが外に知られると危険です。また、鍵掛けももちろん重要です。

委員：各自がセキュリティ意識を持つことが大事ですね。空き巣でなく、家に強盗が押し入ったニュースもたまに見ますが、実際に起こりえるのでしょうか。

委員：まだ愛知県内はそのような凶悪な事案は少ないかもしれませんが、逆をとれば、情報に基づいた窃盗が多いと言えるのではないのでしょうか。

会長：他に、ご意見やご感想はございますか。

委員：担い手不足については、各団体共通する悩みであると感じました。

また、多くの方が熱心に活動する地域では、子ども見守り隊の方などから通学路などの危険箇所などの意見が多く集まるのですが、そうでない地域とは活気に差が生まれてしまっていると感じます。

委員：声掛け事案など不審者情報がメールで発信されていますが、こうした情報に自分が載ってしまう可能性を考えると、大人は子どもにあいさつを含め声掛けのしづらさがあるのではないのでしょうか。メールの発信に基準等がありますか。

委員：「知らない人が声を掛け、スマートフォンを向けながら去った」など、普通のあいさつ程度の声掛けとは明らかに異なる言動などがあれば、発信する文面の中で、不審人物の怪しさをできる限り伝えられるようにしています。

委員：子どもの見守りをしていることが分かるユニフォームを着ていない場合などでは、自分が子どもに怪しまれてしまうのではないかと、萎縮してしまうことがあるのではないかと思います。

委員：私は、登下校時に子ども見まもり隊として子どもと接する中で、まず子どもたちに顔を覚えてもらえるように意識しています。そのうち、自然とあいさつを交わしてくれるようになります。

委員：質問です。自転車の盗難被害が多いとのことですが、盗まれた自転車が「自分で買ったものか」「人から買ってもらったものか」の分析はされたことはありますか。

委員：そういった分析は現状無いですが、今は自転車も高価で、子ども本人が買うケースというのは少ないかと思います。鍵掛けについて徹底するよう、ご家庭内でもぜひお話をしてほしいです。啓発として、無施錠の自転車のハンドル部分に黄色いタグを付けるようにしています。それを家に持ち帰って来ることがあれば、外で自転車に鍵を掛けていなかったということになりますので、家へ子どもがこのタグを持ち帰って来た際には、ぜひ鍵掛けをするよう言ってもらえたらと考えています。

以前、駅の駐輪場を確認した際に、約9割以上の方は鍵掛けをしている様子でした。しかし、盗まれる自転車のほとんどが無施錠となっていますので、盗まれるのは、駐輪場で数パーセントの中の自転車ということになります。

委員：盗まれた自転車はどこかに行ってしまうのですか。

委員：盗まれて、移動に使われた後に、乗り捨てられているのが見つかるケースもあります。

副会長：アンケート結果を見ると、【問6】で防犯対策について「市からの情報発信」が必要と多くの方が回答している結果となっています。それを反映している内容として、行動計画の16ページ「防犯意識の醸成」に関する推進事業に掲げられている「効果的な防犯情報の発信」の中に、「SNS、ホームページ、広報紙など」とあるのですが、若い子たちって広報紙を見ているのかなとふと感じました。愛知県警の提供するアプリ「アイチポリス」は定期的な情報発信があるのですが、こうした防犯情報の発信のツールについても、多くの人に知ってもらい利用促進の取組みを進めていただけたらと思います。

また、17ページの推進事業「若者と連携した防犯情報の発信」にも挙げられている、SNSの悪用等の啓発については、大学生なども活用しながら発信、広報のしかたを工夫していただき、若い人に見ていただくことで若者を中心に防犯意識を高めていけたらと感じました。

会長：若い方に防犯活動に参加していただけると大変心強く感じます。若い方を通じて、おうちでご家族に、防犯の啓発をしてもらえるようになっていけばと思います。

事務局：市としてもアンケートの調査から、市民の方が「市からの情報発信」を頼りにしてくださっている状況を知ることができるきっかけとなりました。

また、こうした情報を、若者を交えて工夫して発信していくことで、新たな防犯活動の担い手を増やし、繋げていくことができると考えています。こうした内容について、ぜひ今後も皆様のご意見等をいただきたいと思います。

会長：地元の情報を発信しているラジオなど、様々なメディアを活用しながら情報発信をしていただけたらと思います。

豊橋市防犯協会連合会として年に4回駅前防犯啓発に参加しているのですが、こうした啓発の効果についても検証しつつ、より豊橋市民に向けた情報発信として何ができるかなど、今後も考えていけたらと思います。

今回も委員の皆様からご意見を伺うことができ、収穫のある審議会だったと思います。司会を事務局にお返しいたします。

事務局：以上を持ちまして、閉会いたします。本日は、大変ありがとうございました。

別紙

豊橋市安全で安心なまちづくり審議会 委員出席

(50音順(委員)、敬称略)

区分	氏名	役職名等
会長	余郷 充代	豊橋市更生保護女性会 会長
副会長	田原 数哲	豊橋創造大学短期大学部 准教授
委員	河邊 光司	豊橋市青少年育成市民会議 副会長
委員	鈴木 健一	豊橋市自治連合会 理事
委員	鈴木 由子	豊橋商工会議所 女性会 監事
委員	中川 元宏	豊橋警察署生活安全課長
委員	永田 強	豊橋市防犯協会連合会 副会長
委員	西嶋 佳美	豊橋市小中学校PTA連絡協議会 書記
委員	山本 圭三	豊橋青パト協議会 会長
委員	由田 恭子	弁護士

<事務局>

安全生活課

課長：大村 信人 主幹：松井 晴一 課長補佐：夏目 智弘
主査：加藤 洋二 担当：加藤 康暉